

議事録要旨

会議の名称	第1回勝浦市地方創生総合戦略策定推進会議
開催日時	令和3年6月24日（木） 10時00分から
開催場所	勝浦市役所 4階 大会議室
会議の議題	1. 会長の互選について 2. 令和2年度地方創生推進交付金事業の活動報告及び事業検証 3. 令和2年度地方創生事業活動報告及び事業検証 4. その他
会議に出席した委員	鈴木 恒夫 市川 慎一 小川 良樹 久我 恵子 大森 良幸 渡邊 嘉男 邊田 翔大 前田 歩美 石井 春人 川村 崇 長島 弘明 藤田 義幸
会議の概要	<p>高橋企画課長 : 定刻により、会議開会を宣言する。 川村副会長 : あいさつ 議長（川村副会長）：出席者12名であり、定足数に達していることから会議の成立について宣言。</p> <p>議題（1）会長の互選について</p> <p>事務局 : 渡邊幸男前会長の退任により会長が不在であり、勝浦市地方創生総合戦略策定推進会議設置要綱第5条第2項の規定により、会長は委員の互選によるとなっていることから、会長の選任の必要がある旨を説明。</p> <p>委員より、渡邊嘉男委員を推薦する意見が出され、議長が会議に諮るも、異議なしであったため、渡邊嘉男委員を会長とすることで決した。</p> <p>議題（2）令和2年度地方創生推進交付金事業の活動報告及び事業検証</p> <p>議長（渡邊会長）：初めに事務局から事業内容についての説明を行い、委員より意見等受けること、委員の評価については、異議等がなければ事務局案を委員評価とする旨の説明。</p> <p>議長の説明に対し、委員全員の下承のうえ、令和2年度に実施した「観光ぷらっとフォーム事業」について、観光商工課より説明が行われた。</p> <p>質疑、委員意見要旨</p> <p>市川委員：外部からの専門人材雇用は、どういう方か。また、毎年変わるのか。</p>

担当課 : 令和2年度はJTB出身の方を観光協会が雇用している。令和3年度は別の方を雇用している。

市川委員 : 専門人材は、継続的に雇用した方が良いのではないか。

担当課 : 令和2年度に雇用した方は、31年度から継続雇用している。また、令和3年度も短期で雇用し、引継ぎがうまくなされるよう対応している。

久我委員 : 日本版DMOになり、どのような成果があったか。これから何をしようとしているのか。

また、商品造成が行われていたと思うが、どのようなものがつくられたのか。併せて、その商品を、これから更に開発なり、どのように売り出していくのかを聞きたい。

担当課 : DMOになり、産官学、様々な事業者と連携して活動していくことが、明確なビジョンとして鮮明になった。これまでのスポット観光ではなく、既存のコンテンツの組み合わせにより、通年型の観光を推していきたい。

商品開発は、令和2年度に構築したコンテンツを継続して、プロモーションしていく。

久我委員 : 通年型の観光とはどのようなものを考えているのか。また、商品開発とは、どのようなものをつくったのか。

担当課 : インバウンドにおける弓道体験。スポーツヘルスツーリズムにおいては5月から9月の期間で活用できるSUP（スタンドアップパドル）。また、寺や酒蔵での体験の組み合わせることで、コンテンツとして開発した。

他に、勝浦商店でのスイーツや朝市での海鮮丼を商品として開発している。

久我委員 : 商品というのは、土産物ではないのか。

担当課 : 土産物としては開発していない。旅行形態の変化により、体験を求める傾向にある。

久我委員 : ターゲットとしている年代層は。

担当課 : 若い女性層やカップルを考えている。

市川委員 : 市内の観光において、デマンドタクシーの利用は可能か。

企画課 : 乗れる地域が決まっており、曜日の限定があるが、市外の方であっても利用は可能。

市川委員 : デマンドタクシーを利用した観光ルートの提供があっても良いのではないかと考える。

川村委員 : いろいろと取組ながら、体験型観光へとシフトしていると思うが、どれだけの人が知っているのかがポイント。新型コロナウイルスは全国共通の課題であるので、対策をしながらどれだけの人に来てもらうのかが、今後の課題

や取組の指針となってくると考える。

１ページ目に、SNSを利用した情報発信とあるが、勝浦のフォロワー数など分析をしているのか。若い人をターゲットにするのであれば、せっかく大学があるのだから、大学生の意見をもっと取り入れてSNSを活用するにはどうしたらよいかを検証すべき。

With コロナの中で、どうしたら人が来てくれるのかの仕掛け、仕組み、情報発信の方法、具体的にどのようにやっていくのかを今後に活かすため、是非改善していただきたい。

質疑終結後、議長から各委員に対し、質問内容を確認した上で事務局評価を、委員の評価とすることの確認があり、各委員の異議がない旨確認と了承がされた。

【評価結果Ｃ】

議題（３）令和２年度地方創生事業活動報告及び事業検証

議長（渡邊会長）：基本目標ごとに、事務局から一通りの説明を聞いた後、委員から意見をいただいて評価したいと考えている。委員の評価については、異議等がなければ事務局案を委員評価とする旨を説明。

①基本目標１「産業振興・企業誘致・就業支援による働く場の確保」

質疑、委員意見要旨

鈴木委員：資料５ページ、行川アイランド跡地の事業の進捗状況は。

事務局：県と事業の進行について協議をしているが、ここ１年ほどは途切れている状況である。市としては、事業の推進について、事業者要望していく。

市川委員：関連するが、環境調査は終わっているのか。

事務局：最終段階の協議を県と事業者で行っている。

久我委員：コロナ禍ではあるものの、リモート活用したアプローチができたのではないかと考えるが、打合せなど行ったのか。

事務局：新型コロナウイルスの影響により事業者との話し合いはできていない。今回、緊急事態宣言も明け、都内へ赴いての活動ができるのではないかと考えている。

久我委員：この事業者だけでなく、他の企業へも市長のトップセールスを行うべきと考えるがどうか。

事務局：企業版ふるさと納税についてトップセールスを行っていく考えはあるが、闇雲にするのではなく、勝浦市に縁のある企業を中心にセールスをしていく。

小川委員：4 ページ、農水産物の高付加価値化とブランド化について、勝浦と銘打ったようなものを推進していきたいというものはあるのか。

事務局：上野、総野地区でのほ場整備に合わせ、ナバナ、タマネギの試作の取組が進められている。水産物では、漁協と協力のうゑマカジキをどんどんPR したいと聞いている。

石井委員：マカジキの良い期間は1 2 月から2 月頃と短い。まだ、地元でも認識が低いので、徐々に広げていってほしい。

小川委員：引き続き、ブランド化の取組を進めてもらいたい。

石井委員：新規漁業就労者への支援はあるのか。

事務局：新規就農者への支援は、青年就農給付金などがあるが、漁業者については、漁業近代化利子補給や設備投資の部分の支援しかない。

石井委員：新規で外部から来た人への住居の確保が重要と考えるので、検討していただきたい。

川村委員：目標の実現のためにどのように取り組んでいくかが重要。事業概要を受けて、評価をし、改善をする。この改善に向けて次をやっていかないと良いものが生まれてこないと思う。

渡邊会長：意見としてだが、マカジキの例で言えば、旬が短い、食し方など、情報をどんどん出していかないと良さが伝わらない。多くの人が賛同の上で、生産力を持って、勝浦の良いものを勝浦ブランドとして発信していくことを徹底していくと良いと考える。

久我委員：3 ページ、国際武道大学との意見交換を行いとあるが、どのくらいの頻度で行っているのか。また、企業版ふるさと納税の受け皿となるプロジェクトの立ち上げとはどのようなものか。

事務局：国際武道大学の関連する企業へのアプローチをするために、どのようなプロジェクトを立ち上げたら良いかと言う相談を事務担当で1 度行った。今後も定期的に行っていききたい。

邊田委員：市における国際武道大学の立ち位置はどういったものなのか。

事務局：非常に重要であると認識している。学生が市の人口の1 割ほどを占めていることから、市に活力を与える存在であると考えている。これまで以上に連携の強化していきたい。

前田委員：意見として、学生が孤立しているように感じる。先ほどのSNS の活用についても、武大を活用し、情報発信をしていけば魅力をもっと広められると考える。

また、夜になると勝浦全体が暗いと感じる。中学生のジャージも紺なので、安全面からも街灯が増えると良いと思う。

事務局：１点目の勝浦市のSNSはフェイスブック、インスタグラムで、移住定住の分野から立ち上がった経緯から、そちらが中心ではあるが、現在は観光や市のプロモーションにも使っている。今一度、広くPRをして活用していきたい。

２点目街灯の件については、商工会を含めて意見があった旨を伝える。

小川委員：勝浦中央商店会の周辺は、街路灯組合により商工会で委託を受けている。それ以外は防犯灯となっているので、うまく行政と調整ができれば良い。

質疑終結後、議長から各委員に対し、質問内容を確認した上で事務局評価を、委員の評価とすることの確認があり、各委員の異議がない旨確認と了承がされた。

No.111 新規農業者への支援及び環境整備 【評価結果D】

No.112 新規漁業者への支援及び環境整備 【評価結果B】

No.113 地(知)の拠点大学による地方創生の推進 【評価結果C】

No.121 農林水産物の高付加価値化とブランド化 【評価結果B】

No.131 企業立地の促進 【評価結果C】

No.132 中小企業の振興 【評価結果B】

No.133 商店街の活性化 【評価結果B】

No.134 起業支援 【評価結果B】

No.135 就労支援 【評価結果C】

②基本目標２「観光による交流人口の拡大、移住・定住の促進」

質疑、委員意見要旨

小川委員：１３ページ、都市住民とは具体的にどういったところからを想定しているのか。

事務局：国、県からの交付金があるので東京２３区からを想定しているが、勝浦市への移住希望があれば都市住民に限るものではない。

小川委員：東京の市や千葉県の都市部など対象地域から外れたところからの相談がある。

事務局：勝浦市では、対象地域から外れた方にも独自の交付金の創設を検討をしている。

川村委員：１１ページ、勝浦ウォーターアイランドは感染症対策をし、実施できたとなっている。どこまでできるかは分からないが、海水浴場や各イベントにおいても対策をして実施してもらいたい。

2点目として13ページ移住を希望するネットワークを活用すればもう少し人が集まるのではないかと考えている。

事務局：昨年は、千葉県下一斉での海水浴場中止という中で、ウォーターアイランドが賑わいを見せた。去年の教訓を活かし、感染拡大を招かないような体制を整え、お客様をお迎えする。

2点目は、ビジターセンターに専門部署を設け、まず勝浦市に興味を持っている方を切り口に、観光と移住定住をマッチングしたような形で進めていく予定である。また、移住者同士のネットワークを構築し、受け入れしやすい環境作りを推進していく。

質疑終結後、議長から各委員に対し、質問内容を確認した上で事務局評価を、委員の評価とすることの確認があり、各委員の異議がない旨確認と了承がされた。

No.211 観光案内の環境整備 【評価結果B】

No.212 イベントの充実と新たな観光資源の整備 【評価結果B】

No.213 漁村・農村観光の促進 【評価結果B】

No.221 U I J ターンの促進 【評価結果D】

No.222 田舎暮らしの魅力発信 【評価結果E】

No.223 若者定住の促進 【評価結果D】

No.224 住環境の整備 【評価結果E】

③基本目標3「子育て・教育環境の向上と充実」

質疑、委員意見

なし

議長から各委員に対し、質問内容を確認した上で事務局評価を、委員の評価とすることの確認があり、各委員の異議がない旨確認と了承がされた。

No.311 婚活の支援 【評価結果C】

No.312 子どもを産み、育てる支援（妊娠から就学前まで） 【評価結果C】

No.313 子どもを産み、育てる支援（就学から高校を卒業するまで）
【評価結果B】

No.314 子どもを産み、育てる支援（出産から高校を卒業するまで）
（郷育プロジェクト） 【評価結果B】

No.314 子どもを産み、育てる支援（出産から高校を卒業するまで）
（子どもによるまちづくり提案事業） 【評価結果C】

No.321 子育て支援施設の整備 【評価結果B】

No.322 学校の整備 【評価結果B】

④基本目標4「子育て・教育環境の向上と充実」

質疑、委員意見

なし

議長から各委員に対し、質問内容を確認した上で事務局評価を、委員の評価とすることの確認があり、各委員の異議がない旨確認と了承がされた。

No.411 住民主導型地域づくり支援 【評価結果B】

No.412 国際武道大学との連携による健康増進

(バレーボール教室、器械体操、タグラグビー) 【評価結果B】

No.412 国際武道大学との連携による健康増進

(健康増進活動支援) 【評価結果C】

No.413 広域連携の促進 【評価結果C】

No.414 国際化の推進 【評価結果E】

No.422 公共交通の整備 【評価結果C】

議題(4)その他

なし